

【城南公民館（第1回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月9日（水曜日） 19:00～19:55
2 会 場	城南公民館 大ホール
3 出 席 者	○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	3名
5 会議概要作成年月日	令和7年4月9日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）

3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）

4 質疑応答

●参加者

- ・公共交通については制約が非常に多く、どんな案が出てくるのかと思っていたが、相当しっかり考えたということが伝わり感心している。
- ・病院に勤務しているが、患者の10～15%はバスを利用している。
- ・病院にバス停が設置されているため、外の気温や天候を気にせずに待機することができる。また、バスが来るまで1時間以上待機する際も快適に過ごすことができる。
- ・高校生も病院まで来てバスを待っていることがある。
- ・こういった待合スペースを停留所へ設置いただくと、より快適にバスを利用できると思う。
- ・丸子方面では大屋駅や病院、自治センターがあるが、青木線では上田駅と青木バスターミナル以外に待機ができる場所はないと思う。
- ・また、高校生は通学定期の金額を据え置くとのことだが、高齢者に対する割引などはあるのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・高齢者としての枠組みではないが、高頻度利用者の負担軽減ということで、回数券のプレミア率を上げ、負担軽減を図っていきたいと考えている。
- ・また、運賃低減バス導入前の平成25年9月時点の運賃と比較しても、安い運賃設定をし、負担軽減を図った。

⇒●参加者

- ・TicketQRは電波が悪く、バスのシステムが正常に作動しない場合に利用できないことがある。
- ・高齢者が利用するにはハードルがあると思うがどうか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・紙製のプリペイドカードも発行しているため、高齢者にも問題なくご利用いただけると考えている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・待合環境については、道路環境の状況もあり、すぐに改善が難しいという部分もある。
- ・しかし、今回路線を再編する祢津線や塩田線ではスーパーマーケットを発着地点とするため、徐々に

はあるが、改善を図っていきたい。

- ・また、路線の間になると停留所が立っているだけというところが多くあるが、TicketQR のバスロケーションシステムを活用することで、停留所で待たなくてもバスが来たところで乗車できる。
- ・実際に高校生にも利用いただいているため、より周知を図っていきたい。

5 閉 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

【武石公民館（第2回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月11日（金曜日） 19:00～19:50
2 会 場	武石公民館 コミュニティホール
3 出 席 者	●千曲バス株式会社 伊藤所長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	12名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）	
2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）	
3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）	
4 質疑応答 なし	
5 閉 会（上田市 交通政策課 横沢課長）	

【西部公民館（第3回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月13日（日曜日） 10:00～11:00
2 会 場	西部公民館 大ホール
3 出 席 者	●千曲バス株式会社 伊藤所長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	4名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）	
2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）	
3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）	
4 交通事業者の現状について（千曲バス株式会社 伊藤所長）	
5 質疑応答	
●参加者	
・ 祢津線について、上田駅から秋和車庫に向かう際、「花園」停留所を通過するが、停車しないのか。	
⇒○千曲バス株式会社 伊藤所長	
・ 現状停車していない。	
・ 経緯としては、本路線は再編されたばかりであり、「花園」停留所の上りには停車せず、下りにのみ停車する取扱いとした場合、利用者に混乱をきたす可能性があった。	
・ 今後、関係各所と協議をし、「花園」停留所の扱いについて検討したい。	
●参加者	
・ 自家用車について、今まで1人1台というのがスタンダードだったと思うが、物価高の影響などによって、1家に1台に回帰しつつあると感じている。	
・ そうなった際に公共交通は非常に重要な移動手段となるため、苦しい中ではあると思うが、是非残して欲しい。	
⇒○上田市 交通政策課 横沢課長	
・ 交通事業者と協力し、引き続き公共交通の維持、確保を図っていきたい。	
●参加者	
・ 別所線について、便数を56本から78本に増便することだが、5年後この便数をさらに増やす、維持するという判断はどのように行うのか。	
⇒○上田市 交通政策課 横沢課長	

- ・別所線の令和5年度の輸送人員は約104万人であり、増便によって5年間で5万人の利用者増加を目指している。達成した場合は5年後も引き続き増便した便数での運行を行っていく。
- ・達成できなかった場合は見直しが必要になるかと思う。

●参加者

- ・ゾーン制運賃についてそれぞれの地域拠点との兼ね合いを説明していただきたい。
- ・あくまでも市街地が中心となっているが、真田、丸子、武石との考え方を教えていただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・現行の運賃低減バスにおいて、真田地域自治センター、丸子地域自治センター、青木バスターミナル等の地域拠点は300円の運賃設定となっている。
- ・ゾーン制運賃では距離に応じて運賃を収受したいと考えているため、真田地域自治センターは500円、丸子地域自治センターは600円、青木バスターミナルは600円、武石地域自治センター付近は800円という設定で考えている。
- ・距離だけでなく、同一生活圏も考えながら運賃を設定した。

⇒●参加者

- ・それぞれのゾーンの中での移動と、市街地に向けての移動について、どれくらいの利用者増加を見込んでいるか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・市街地では100円で3～4キロ移動することができるため、利用が増加するのではないかと見込んでいる。
- ・その周辺の地域については運賃が上がる箇所もあるため、多少利用が減少するのではないかと考えている。
- ・その分は運賃の値上げ分でカバーしていきたい。
- ・高校生については定期代を据え置くことによって、なんとか利用促進を図りたいと考えている。
- ・また、菅平高原線については県外の利用者が多いため、そういった観光客からはしっかり運賃をいただきたいという思いもあり運賃を設定している。

⇒●参加者

- ・承知した。
- ・運転手確保について、移住政策との関係で何か検討しているのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・本年2月に東京でバス運転手希望者向け移住セミナーを実施したが、4名のみの参加であった。
- ・初めから移住と運転手を組み合わせて募集を行うより、裾野を広げて移住政策と連携していきたい。
- ・また、県も移住に力を入れているため、連携を図っていきたい。

⇒●参加者

- ・移住者への手厚い補助を行って成功している地域もあると伺った。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・移住セミナーの参加者は真剣に移住を検討していたが、賃金面から断念された方もいた。
- ・都会との賃金差を埋めていくことも重要であるため、そのあたりも留意しつつ説明を行っていければと思う。

【塩田公民館（第4回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 協議会名	路線バス利用者説明会
2 日 時	令和7年4月14日（月曜日） 19:00～20:35
3 会 場	塩田公民館 大ホール
4 出席者	●上田バス株式会社 新井取締役乗合部長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
5 参加者	10名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）

3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）

4 交通事業者の現状について（上田バス株式会社 新井取締役乗合部長）

5 質疑応答

●参加者

- ・バスを日常的に利用しており、特にオレンジバスを頻繁に利用している。
- ・運賃が200円になるということだが、いつから変更されるのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・本年10月である。

⇒●参加者

- ・普段オレンジバスを利用している方は200円になることを知らないと思う。
- ・周知をお願いしたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・まずは利用者説明会で説明させていただき、そのあとに関係施設等への資料設置や、車両内での周知を図っていきたい。

●参加者

- ・塩田地域公共交通を考える会として、出前講座を開催しながら路線バスについて学習してきた。
- ・オレンジバスの西塩田コースは特に利用者が多く、車内は座るところがないくらいである。
- ・また、西塩田コースは通常の路線バスが運行しているような開けた場所を走るが、東塩田コースは山間部の細い道を通っている。
- ・信州上田レイライン線については、信州の鎌倉シャトルバスとは異なり急斜地を走るが、無言館から

下之郷駅までは民家もなく生活圏でない箇所を運行するため、もう少し乗りやすいコースにできないかと考えていた。

- ・具体的には、新町の交差点の中に入っていき、通常の路線バスが運行していない東前山、西前山を運行するルートなども考えられる。
- ・信州の鎌倉シャトルバスがなくなったことで、あいそめの湯に行けなくなった方もいる。
- ・高齢者にとって使いやすいバスにしていけるためには、バス停が近くにあるなど、利用しやすい環境の整備が重要である。
- ・今回の再編でツルヤ塩田店が発着地になるということで、とてもありがたく感じている。
- ・自転車通学をしている高校生や中学生が、帰りは自転車を押して帰ってくる光景をよく目にする。
- ・他地域を見ていると、自転車で電車に乗れるところもあるため、そういった別所線の利用も考えていただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・信州上田レイライン線については、市長からも下之郷駅から無言館までのルートについて見直しが必要ではないかとの意見をいただいている。
- ・また、塩田町駅と無言館をつなぐルートはどうかとの意見を市長からいただき、今回見直しを行ったという経緯もある。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・路線のイメージとしては、ツルヤ塩田店を発着として、学海団地を通過し、塩田町駅へ接続する。その後、新町交差点に出て、無言館を経由し、再度新町まで戻り、手塚地域に入って別所温泉まで向かう。最後は県道を経由し、ツルヤ塩田店へ戻るルートである。

⇒●参加者

- ・無言館に行った後、新町に戻るルートだと塩野神社周辺の方が困る。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・今回はひとまずこのルートで運行できればと考えている。
- ・また、レイライン線について、冬季は運行していなかったが、再編によって通年運行にしたいと考えている。
- ・そうすると凍結の危険があるルートは避けなければならない、今回のような運行ルートに設定した経緯がある。

⇒●参加者

- ・ツルヤの停留所はどこに設置されるのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・停留所は南側入り口付近に設置できないかと考えている。
- ・店舗の隣に設置するため、雨宿りもできるうえ、バスを待つ時間に店内でゆっくりできる。
- ・バスの待機については利用者の邪魔にならない場所を検討している。
- ・ツルヤ塩田店からも許可をいただいております、詳細については今後詰めていきたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・信州上田レイライン線について、無言館までの利用者はいるが、その先の利用者が少ない状況であり、現状のままでの維持は厳しいということから再編に至ったという経緯がある。
- ・実際にレイライン線に乗車すると無言館まで行く利用者はおり、別所温泉から戻ってくると、反対に無言館で乗車して下之郷駅へ帰る利用者がいる。
- ・どうしても無言館から先となると利用者が少ない。そのため、今回このような見直しを行ったということをご理解いただきたい。

- ・オレンジバスも実際に乗車すると、西塩田の多くの皆様に利用いただいている。
- ・心苦しいところではあるが、有料化を行わざるを得ないということをご理解いただければと思う。
- ・サイクルバスやサイクルトレインについては、コロナ禍前に別所線で実証実験を実施した。
- ・しかし、特に上田駅などで駅の構造上自転車を運ぶということが困難であり、実施に当たってはホームの改修も必要となってくるため、難しい状況だと考えている。
- ・サイクルバスについても、他地域では期間限定で実施しているところがあるが、通勤での利用で実現できるかというところがある。
- ・実施するとしても観光利用かつ期間限定という形になってしまうと思うが、今後も研究をしていきたい。
- ・オレンジバスの運行についても現在のルートが万全だとは思っていない。利便増進事業を行う中で、出前講座なども通じ、率直に皆様と意見交換ができればと思う。

●参加者

- ・別所線は増便によって下之郷駅までの便が多くなっているが、別所温泉までは逆に減っている感じがする。
- ・むしろ8時台の時間に利用していた便がなくなってしまった。
- ・そういった部分をカバーできる路線バスであってほしい。
- ・下之郷駅で停車する便が多くなっているの、下之郷駅から塩田方面へ運行する路線バスがあれば、別所線がない時間帯にカバーできると思う。
- ・先ほどの話ではかなり運行ルートが決まっている様子であったが、それ以外のルートは想定しているのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・一旦はお示ししたルートでの運行を考えている。
- ・塩田線はもともと収支率が低い中で再編を検討してきた路線であり、ひとまずは運行をする中で利用者増加を目指し、状況を見つつ今後検討していきたい。
- ・別所線のダイヤ改正によって不便になった箇所もあると思うが、時間を合わせてご利用いただければと思う。
- ・塩田地域循環バスについては塩田町駅と別所温泉駅にも接続するため、鉄道と組み合わせながらご利用いただけるとありがたい。

⇒●参加者

- ・塩田線に乗ると利用者が1名ということもあり、運行は大変だろうと考えていた。
- ・今後も状況を見ながら適宜見直しを行ってほしい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・ツルヤ塩田店内に停留所を設置することは初めての試みである。
- ・塩田線を生活支援路線にすることで利用者が増加するのかもしれないところも見つつ、検討を行ってきたい。

●参加者

- ・資料の中でバス事業の赤字額が1億1千万円と説明があったが、これは上田市の負担分ということか。
- ・運賃低減バスを10年ほど実施する中で、利用者にも浸透してきたと思うが、この制度を維持することはできないのか。
- ・運賃の引き上げについて経過措置を設けるとのことだが、運転手や利用者にも負担となりトラブルが

発生する可能性がある。また、機械の設定などで経費もかかってくるため、一気に上げた方がいいのではないかと。

- ・オレンジバスについては旧上田市以外の地域は恩恵を受けていない。
- ・地域に路線バスが走っているだけでもありがたいという思いで、利用者には値上げを我慢していただきたい。
- ・電車、バスにしろ1～2時間に1本でも運行されるだけありがたいという気持ちでいかなければ、全市民が満足のいくものにはならないと思う。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・赤字額については資料に記載のとおりであり、総事業費が約6.2億円、県、市補助が2.9億円、上田市が負担している部分は大体1.5億円という状況である。
- ・その他については、路線バスが乗り入れている青木村や立科町の補助金となっている。
- ・総収入は約2億円であり、残り1.1億円がバス事業者の負担分になっている。
- ・昨年の4月に減便が行われたため、現在はここまでの赤字ではないと試算している。
- ・運賃についてもゾーン制導入によって段階的に値上げを行うため、行政負担の増加の部分と運賃の引き上げの部分等により、赤字額は約7千万円となると考えている。
- ・運賃の値上げと行政負担によって赤字を解消していきたい。
- ・行政も財政状況は厳しいため、国からの補助金や特別交付税を活用し、増加した負担部分は賄っていく。
- ・オレンジバスについては旧上田市内の運行となっているが、他地域でも地域限定の移動手段がある。
- ・真田地域ではふれあいさなだ館と地域を結ぶ無料のバスが運行されており、武石地域では合併前の平成18年2月からデマンド交通が運行、丸子地域でも地域循環バスが運行され、昨年からはデマンド交通へ変更されたところである。
- ・このようにそれぞれの地域で、各々の特徴を持った交通が運行されており、状況に応じ交通体系が成り立ってきた経過があるため、ご理解いただきたい。
- ・運賃について一気に引き上げるべきというご意見は交通事業者からもいただいたが、行政と交通事業者、利用者の互いが納得できる形を模索する中で、経過措置を実施する運びとなり、事業者にもご理解をいただいたところである。
- ・また、事業者からは本来の運賃に戻してほしいという要望もいただいたが、運賃設定を100円単位とすることで運転手の確認作業も楽になるという側面もあり、ゾーン制運賃にご納得いただいた側面もある。
- ・実施にあたっては周知に努めたい。

⇒●参加者

- ・運転低減バスの継続は難しいということによいか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・そのとおりである。
- ・本来の運賃と低減後の運賃の差があまりにも開きすぎている。
- ・また、ゾーン制運賃となっても本来運賃よりは安い料金設定となっているため、引き続き運賃低減施策が継続しているともいえる。

●参加者

- ・オレンジバスの利用者は高齢者が多いが、ステップに上がることができない場合がある。
- ・ステップを下げてくださいともあるが、毎回は行っていただけない。
- ・上田バスではノンステップバスを導入するといった予定はないのか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・オレンジバスは上田市が購入した車両である。
- ・車両は老朽化しており、修理費もかさんでいるため、どこかで車両の更新も考えていかなければならないと考えている。

⇒●参加者

- ・毎回停留所で車両を下げるということとはできないのか。

⇒○上田バス(株) 新井取締役乗合部長

- ・車両の不具合で下がらないことがある。
- ・オレンジバスについては、多少到着時刻が遅れても皆さんに快く迎え入れていただけるが、通常の路線バスでは電車との乗り継ぎなどがあり、都度車両を下げると再度上げる動作に時間がかかってしまうため、なかなか難しい。

⇒●参加者

- ・上田駅を見ていると小型のノンステップバスが増えていると感じる。

⇒○上田バス株式会社 新井取締役乗合部長

- ・ノンステップバスでないと車いすの方の対応が難しくなる。
- ・国の施策でバリアフリーの車両購入には補助があるため、活用しながら車両購入をしていきたい。

●参加者

- ・オレンジバスの東塩田コースの「下之郷」停留所について、道路のすぐ脇に設置されており、非常に危険である。
- ・下之郷駅の中に停留所を移設すると、バスを転回させる作業が大変だと伺ったが、非常に危険であるのでそのあたりも考慮いただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・まずは現場を確認し、改善できるものについては改善していきたい。

●参加者

- ・野倉の方と話す機会があったが、車がなくなったらどうしたらいいのかとおっしゃっていた。
- ・野倉にバスを通すのは大変だと思うため、バス停まではデマンド交通で行くといったことを考えていかなければならない地域だと思っている。
- ・その方にも野倉の方たちが意見を持っていけないと、デマンド交通の話なども進んでいけないという話をした。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・すべての要望をカバーすることは難しい状況である。
- ・冒頭でも申し上げたとおり、地域公共交通を維持確保していただくだけでも困難な状況となっている。
- ・行政としては地域公共交通の幹にあたる路線バス、鉄道については将来にわたっての維持確保を最優先にやっていかなければならないと考えており、利便増進事業を検討してきたところである。
- ・バス停や鉄道駅までの移動については、全てを行政で賄うことは難しいのが現状である、
- ・先ほどの説明の中で説明させていただいた地域の取組を参考にさせていただきながら、地域にあった交通モードを考えていくきっかけにいただければと思う。

【川西公民館（第5回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月16日（水曜日） 19:00～20:30
2 会 場	川西公民館 大ホール
3 出 席 者	●千曲バス株式会社 伊藤所長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	9名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）

3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）

4 交通事業者の現状について（千曲バス株式会社 伊藤所長）

5 質疑応答

●参加者

- ・公共交通が厳しいということは30年前から言われていた。
- ・行政としては市民に提供するサービスの最低限は守らなければならないという考え方があると思う。
- ・運賃低減バスを12年間実施してきた中で、この施策についてどう評価しているか。
- ・路線バスの廃止は全県的な問題である。バスには県の補助金も入っていると思うが、県はどういった考えを持っているのか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・運賃低減バス運行事業は平成25年10月から実施し、本年度で12年目を迎えた。
- ・効果については3点あると考えている。
- ・まずは利用者の増加である。導入して2年目で大きく増加した。
- ・しかし、その後コロナ禍の影響もあり、利用者は横ばいとなっている。
- ・また、高校生の通学に係る定期代等の負担軽減にもつながったと考えている。
- ・さらに、運賃が50円単位となったため、運賃を確認する運転手の負担軽減にもつながった。
- ・しかし、課題についても2点ある。
- ・まず、事業者のインセンティブが働きにくい点である。
- ・本事業では低減前の平成24年10月から1年間の運賃を保証し、その差額を事業者に交付するというものである。
- ・そのため、利用者数が増減しても事業者にとってはあまり影響がない。
- ・また、特別交付税の対象にならないため、負担金の全額を市の一般財源で負担している。
- ・なお、特別交付税措置は幹線系統に該当するバス路線が8割、それ以外の路線は財政力指数に応じて

割り落としとなる。

- ・県の考え方についてだが、現在平成 13 年時点で市町村をまたいでいた路線については地域間幹線系統として国、県から補助をいただいている。
- ・今回、県は支援を厚くすると計画しているが、その対象となる路線は現在の市町村またぎの路線のみである。
- ・そのため、当市で対象となる路線は青木線のみとなる。
- ・当課では国に幹線系統と認められている路線については、県も支援を厚くしてほしいと意見を述べているところである。
- ・県には県の事情があるということは理解しているが、納得はしていないと主張している。
- ・引き続きバス事業者とともに意見していきたい。

⇒●参加者

- ・上田市街地循環バスについては、こういった見直しを行うのか。
- ・丸子、武石地域ではデマンド交通が運行されているが、見直しを行うのか。
- ・しなの鉄道では Suica が導入されるとのことだが、上田市は導入していくのか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・上田市街地循環バスについては、一部運行ルートの変更を検討している。
- ・オレンジバスの乗客がアクアプラザで降車するケースが多かったため、卸団地を経由するルートから、アクアプラザを経由するルートへ変更を行うことで利用者の確保を図っていききたい。
- ・また、上田市街地循環バスは昼間の利用者が少ないため、信州上田医療センター線と統合して再編できないか今後検討していきたい。
- ・デマンド交通について、説明の中でマイナス面を強調したが、これは旧上田市を中心とする市街地で実施する場合である。
- ・デマンド交通の大きな問題は、タクシーと競合することである。
- ・それによって、タクシー事業者の経営悪化につながり、廃業に追い込まれるという懸念があり、それは防がなければならない。
- ・ただ、武石地域デマンド交通については合併する前の平成 18 年 2 月に村営バスや路線バスが縮小してく中で、地域の移動手段を確保するために開始されたものである。
- ・タクシーの配車に時間がかかる地域でもあるため、地域に即した交通モードだと考えている。
- ・丸子地域デマンド交通については、平成 12 年に運行が開始された丸子地域循環バスが前身となっている。
- ・丸子地域循環バスは当初利用者がいたものの、近年利用者が激減し、その代替ということで丸子地域デマンド交通を令和 5 年 10 月 2 日から実施している。
- ・ただし、民業圧迫がどうしても懸念される点であるため、紹介した神川地域の取組が広がっていくことがベストだと考えている。
- ・キャッシュレスの関係については、来年 3 月よりしなの鉄道に Suica が導入される。
- ・県でも知事から、令和 4 年に全県の路線バスへ Suica と連携する地域連携 IC カードを導入していこうと声掛けがあった。
- ・しなの鉄道に Suica が導入されることとなった背景としては、この 3 月から JR 東日本の信越本線に Suica が導入されることとなり、その路線に乗り入れるしなの鉄道は Suica を入れざるを得なくなったためである。
- ・上田市は令和 2 年から地域の企業が開発した TicketQR を公共交通へ導入してきた。
- ・県の方針が出る前に既にキャッシュレス化の取組を始めており、県へも情報共有をしながら取り組み

を進めてきた中で、令和4年になって県の方針が出てきたため、急に県の方針に沿うことは難しい。

- ・また、地域連携 IC カードは導入コストがそれなりにかかるため、それを誰が負担するのかという問題も出てくる。
- ・まずは安価に導入でき、ランニングコストも安い TicketQR を推進していきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・承知した。
- ・確認だが、丸子地域デマンド交通は当分運行が継続されるという認識でよいか。また、運賃は変わらないのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・導入されてまだ1年半ということもあるため、住民の方の声も聞きながらどういった運行を行っていくかは丸子地域建設課に委ねられている。
- ・運賃や運行時間についても、ご意見を頂戴しながら随時検討していきたい。

●参加者

- ・説明の中で運転免許証自主返納促進事業の見直しについて触れられていたが、唐突に出てきて意味がよくわからなかった。
- ・これは運転手を確保するために免許を返納しないでほしいということなのか、それとも免許を返納してバスに乗ってもらいたいのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・運転免許証自主返納促進事業では免許を自主返納された方に1万円分のタクシーチケットを交付する事業である。
- ・本事業は開始から8年を迎えている。
- ・事業については約10年経過したところで効果検証を行い、今後の方向性について検討する必要があると考えている。
- ・見直しの方向性について現時点では決まっていないが、検証を行ったところでまた皆様にお伝えしたい。
- ・タクシー事業者のおかれている状況がかなり厳しい中で、将来的にタクシー補助券を交付しても利用できるタクシー事業者がないという事態も現実味を帯びている。
- ・そのため、タクシー事業者の体力も踏まえ、今後公共交通を残していくということを考えながら検証を行っていきたい。

●参加者

- ・青木線について、20時台の便が復活するとの話があったが、これはいつから実施とどのなるのか。
- ・青木村の村営バスを利用している方もいるが、上田市内は止まらないため、学校の部活が終わると上田駅まで迎えに行っている保護者もいる。
- ・朝の青木線の状況について、子供の通う学校は8時50分に始業となるが、道路状況を考えると6時台の青木線に乗らなければ、学校に間に合わない状況である。
- ・青木村に企業の工場ができたことにより、朝夕は地域の方も国道に合流しにくい状況となっている。
- ・また、7時台に上田市内へ入るバスについても青木村内でバスが満車となっており、雨や雪の日は乗車できずに次の便を案内される。
- ・こういった状況は何年も前から発生しており、近年さらに拍車がかかっている。
- ・最近ではSDGSが進められている中で、通勤に公共交通を利用したいが、最終便が早いいためなかなかバスを利用することができない。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・青木線 20 時台の復活について、計画の段階であり、事業者の経営が厳しい中で本当に実現できるかということを今後協議していくという状況である。
- ・そういった中で、20 時台を復活できたとしても 20 時台の早い時間の運行が現在の限界だと考えている。
- ・また、実施する場合は本年 10 月から運行を開始したいと考えている。
- ・渋滞については交通事業者ではどうしようもないところがある。
- ・こういった中で、昨年度日置電機(株)が実証実験として、通勤に公共交通を利用するという取組を実施した。
- ・また、青木村に工場を建設した事業所についても、通勤に公共交通をご利用いただくような提案を青木村を通して行い、少しでも車を減らすような取組を行っていききたい。

⇒●参加者

- ・承知した。
- ・オレンジバスの運賃が 200 円になるという話だが、TicketQR も利用できるようになるのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・利用できない。
- ・運賃が 200 円となる 10 月からはひとまず現金での支払いをお願いしたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・渋滞の関係については、千曲バスも困っている状況である。
- ・なかなか改善にはならないが、そういったご意見があるということは承知している、

●参加者

- ・渋滞については幹線道路が 1 本しかないため、改善はなかなか難しいと思う。
- ・建設部署などにも話をしていかなければならない。
- ・青木線の最終便が減便によって繰り上げられたことにより、学生の親御さんや県庁職員は困っているため、20 時台の復活はぜひお願いしたい。
- ・千曲バスの運転手に女性がいて大変よいと思う。入社の経緯などを教えほしい。

⇒○千曲バス株式会社 伊藤所長

- ・20 時台の便について、上田市の希望として 10 月 1 日から運行ができればとお話をいただいている。
- ・しかし、10 月 1 日というと半年しかない。
- ・先ほどの説明にもあったとおり、現在当社の運転手不足数は 12 名である。例えば上田駅を 20 時ちょうどに発車した場合、青木バスターミナルに着くのが 20 時半過ぎとなる。回送で営業所に戻っても終業点呼等を行うと 21 時半までかかってしまう。
- ・その場合、2024 年問題によって、21 時半から 11 時間は休息をとる必要があるため、おそらく 8 時半以降の出社という形になる。
- ・当社の運行のラッシュは 5 時半から 7 時までであり、8 時半頃に会社に来られても仕事がない状況である。
- ・やはり、雇用促進を図っていかなければ、現時点では 20 時台の復活を明言することはできない。
- ・現在、市と協力し「バスの運転体験ができる会社説明会」を実施している。
- ・今年度も開催するため、是非ご家族などにお声がけいただいて、1 人でも多くの募集があるようお願いさせていただきたい。
- ・女性運転手については、当社では上田営業所に 2 名、小諸営業所に 1 名の計 3 名が在籍している。

- ・お客様からも男性より女性の方が運転も対応も優しいとお褒めの言葉をいただいている。
- ・子育て世代の女性でお子さんが小学校、中学校に進学し、ある程度仕事をする余裕が出てきた方の就業も促進できればと考えており、市と協議しながら女性が勤務しやすい環境を構築できればと考えている。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・柵津線の再編についても、終点をツルヤかのかう店とすることで、休憩時間に昼食の購入が可能でありさらにトイレもしっかりと完備されており、明るい環境で待機ができる環境となっている。
- ・運転手に優しく、また、女性の運転手でも快適に休憩できるということも考え、再編を行った。
- ・こういった路線を増やしていき、運転手の環境も整備しつつ、女性運転手の確保へつなげていきたいと考えている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・先ほどの説明でも「バスの運転体験ができる会社説明会」について紹介させていただいた。
- ・その中で女性運転手1名が採用され、現在小諸営業所で勤務している。
- ・こういった説明会も入社への1つのきっかけになると考えている。
- ・本来はバス事業者で開催するものであるが、そうはいっていただけないため、市も伴走型支援をしていきたいと考えている。

6 閉 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

【真田中央公民館（第6回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月18日（金曜日） 19:00～20:00
2 会 場	真田中央公民館 大ホール
3 出 席 者	●上田バス株式会社 新井取締役乗合部長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	15名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）

3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）

4 交通事業者の現状について（上田バス株式会社 新井取締役乗合部長）

5 質疑応答

●参加者

- ・渋沢線を子どもが利用している。利用者が少ない中、毎日安全に運行していただき感謝している。
- ・今回、渋沢線がなくなりスクールバス対応になるとのことだが、どんな形で運行するかが決まっていれば教えていただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・スクールバスについては教育委員会で対応することとなっており、詳細についてこれから詰めていく。
- ・不便にならないような形で運行したいと考えているため、決まったところでお伝えできればと思う。

●参加者

- ・配布資料のスライド番号 25 ページ目に記載されているパターンダイヤの図について、傍陽線が直線でなく折れ曲がって記載されているが、大倉と入軽井沢の関係でこういった表現にしているのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・傍陽線は本原も経由しているため、折り曲げて表現をしている。

⇒●参加者

- ・傍陽線について、パターンダイヤ化されることでダイヤが今より減少するということはあるのか。

⇒○上田バス株式会社 新井取締役乗合部長

- ・運行回数については現状維持を考えている。
- ・傍陽線については、自治センター発の大倉行きなどを減らし、上田駅からの直通便を増やすよう検討をしている。

●参加者

- ・菅平、傍陽、真田線のパターンダイヤ化ということは3つの路線を組み合わせて30分間隔のダイヤを実現するという考えでよいか。
- ・傍陽線について、入軽井沢、大倉行きが現状7～8本ほどあるが、現状維持ということによいか。

⇒○上田バス株式会社 新井取締役乗合部長

- ・傍陽線については現行の便数を維持していく。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・パターンダイヤについて、菅平、傍陽、真田線は自治センターから路線が分かれていくため、センターまでは30分間隔での運行確保を行っていききたい。その先については現行の便数を維持していききたい。
- ・また自治センターについて、上田駅からの最終便が現状では22時発であるが、こういった遅い時間の便についても維持できるようダイヤを組んでいる最中である。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・バス事業者は何回も時刻表を作成していただき、試行錯誤している中である。
- ・真田地域は、平成23年に地域独自の真田地域公共交通利用促進協議会を立ち上げており、バスを利用しようという機運がある地域だと考えている。
- ・こういった協議会是他地域でも立ち上げが試みられたが、頓挫している。
- ・こういった取組が上田バスの路線維持につながっていると感じている。
- ・引き続きバスの利用をお願いできればと思う。

6 閉 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

【上野が丘公民館（第7回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月21日（月曜日） 19:00～20:15
2 会 場	上野が丘公民館 大ホール
3 出 席 者	●上田バス株式会社 川端上田営業所長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
4 参 加 者	15名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）	
2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）	
3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）	
4 交通事業者の現状について（上田バス株式会社 川端上田営業所長）	
5 質疑応答	
●参加者	
・以前、市長宛てで交通政策課へお願いをしたが、真田から下原、大屋を経由し鹿教湯に至る路線の設置はまだ達成できないのか。	
・先日、下原、大屋間を回送で走っているバスがあったが、こういった無駄を有効活用できないのか。	
・真田方面から丸子方面へ向かうには必ず上田駅を経由する必要がある、時間が余計にかかってしまう。	
⇒○上田市 交通政策課 横沢課長	
・運転手の労働時間規制等があり、現状の路線バス17路線を維持するだけで難しい状況である。	
・実際、そのような状況を受け、昨年4月に減便を実施した。	
・配布資料のスライド番号17ページ目に利用者数が多い上位5路線を列記させていただき、上位の鹿教湯線、青木線で減便が実施されており、20時台の便がなくなっている状況である。	
・その中で、高校生が塾や部活を終えた後の交通手段がなく、親御さんが迎えに行かなければならない状況が発生している。	
・我々としてはこの20時台の便復活をまず最優先するべきだと考えており、運行事業者へ検討をお願いしているところである。	
・まだ確約はいただいていないが、いずれにしろ運転手の確保次第というところである。	
・市長宛てにお手紙をいただいたことも承知しており、その他にも路線バスを新設したらどうかというご意見もいただいているところだが、まずはどこを最優先にして実施していくべきかを検討した中で、20時台の復活や路線の見直しができることを最優先に行っていきたいと考えている。	
・路線の新設となると、経費を誰が持つのかということから始まり、国の認可も受けなければならない話であり、慎重に検討していく必要がある。	
・利便増進事業も完璧なものではない。まず10月から実施できるものを行っていき、その後できることは随	

時検討していきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・はいそうですかとはいかない。
- ・一旦やってみることはできないのか。実際に困っている住民や学生がいる。
- ・上田駅の温泉口へ 20 時台に行くと青木村の村営バスが待っている。青木村は通勤、通学の方のために工夫をしている。
- ・上田市でもマイクロバスであれば市の職員でも運転できるが、そういった対応を考えることがあるのかどうかも伺いたい。
- ・事業者だけに頼らずに、市の余剰人員でやる方法はないのか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・青木村では、村で村営バスを所有しており、運転手も非常勤で確保している。
- ・その方たちは日中、村のデマンド交通を運行している。
- ・上田市はそもそもバスを持っておらず、運転手も雇用していない。
- ・上田市で何とかするには、運転手を一から雇用する必要がある。
- ・事業者が努力している状況なので、まずは事業者へお願いをしていくというのが我々のスタンスである。
- ・まずやってみるという話もあるが、運輸局への許認可等も必要になってくる。

⇒●参加者

- ・テストケースでやるのであれば、市独自で可能ではないのか。行政は柔軟に対応できないのか。
- ・丸子修学館高校は昨年度の生徒数が約 600 名であったが、そのうち真田、菅平、五中、一中エリアから通学している生徒が 30%いる。
- ・通学をするには既存のバス路線の利用、親の送迎もしくは自転車となる。
- ・また、バスについては雨の日などは利用者が集中し、時間帯によっては乗れない場合もあり、親が会社を休んで送迎しなければならないという状況が何年も前から発生している。
- ・地域の交通の便によって、学生の通学が制限されるということは甚だ疑問である。
- ・一部の時間帯だけでも、青木村のような工夫をやったらどうか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・運行については安全第一であり、そのために二種免許取得制度や路線バス事業者が存在している。
- ・やってみるということは確におっしゃるとおりかもしれないが、安全性の確保が第一であるため、そのあたりも加味しながら検討する必要がある。
- ・3 月にギャラリーバスという千曲バスの車両へ高校生の作品を展示するという取組を行い、その際に、公共交通をご利用いただいている生徒に集まっていただき、座談会を開催した。
- ・他の高校でも座談会を開催し、利用者の意見を聴いていきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・各高等学校でバス利用者にアンケートを取っているため、登下校の時間も把握できると思う。
- ・上田市でも今後 DX を加味してやっていくということなら、リアルタイムで実施できる方法を考え、無駄なくバスを運行する必要がある。
- ・実際に困っている人がいるということを念頭に置いてサービスをやってもらいたいと思う。

【丸子文化会館セレスホール（第8回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 日 時	令和7年4月23日（水曜日） 19:00～20:35
2 会 場	丸子文化会館セレスホール 小ホール
3 出 席 者	●上田バス株式会社 新井取締役乗合部長 ●千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長 ●東信観光バス株式会社 篠原営業部長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角 藤澤係長、田中主事
4 参 加 者	15名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）
2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）
3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）
4 交通事業者の現状について（千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長）
5 質疑応答
●参加者 ・鹿教湯線の20時台の便は上田駅で飲んだ際、自宅までの帰りに使っていた。 ・また、市役所職員や高校生の利用も多かった。 ・20時台の便は本当にありがたかったので是非復活していただきたい。 ・運賃低減バスを12年間運行したとのことだが、どのような効果があったのか。 ・丸子地域デマンド交通について、内村地区が運行エリアに入っていないうえ、大屋駅へ乗り入れている。 ・デマンド交通の見直しも随時行っていただきたい。
⇒○上田市 交通政策課 横沢課長
・3月27日に上田高校文化班が作成した作品を路線バスに設置するというギャラリーバスを実施した。 ・その際にバスを利用する高校生を含めて座談会を実施した。 ・Wi-Fiの設置などの意見を予想していたが、一番多い意見は20時台のバス復活であった。 ・そういった意見を千曲バスも聞いており、運転手の充足が大前提とはなるが、市としてもお願いしていきたいと考えている。 ・運賃低減バスの効果については、配布資料のスライド番号37ページに効果を3つ、課題を2つ記載させていただいた。 ・効果については、利用者数の増加であり、特に導入して2年目に1番効果があった。 ・しかし、その後は横ばいで推移し、コロナ禍で減少することとなった。 ・公共交通の専門家の言葉を借りると、安価な運賃は短期的には効果があるが、長期的には社会的不便益を招くというようなこともあり、今回見直しをさせていただいた。

- ・利用者の負担軽減等の方向性については、通学費の負担軽減になったというご意見もいただいているため、通学定期額は据え置きとする。
- ・また、運賃の確認に関わる負担軽減ということで、運賃が 50 円単位となったことで、運転手の運賃確認作業が楽になったということもあった。
- ・今後はゾーン制で運賃が 100 円単位になるため、さらに確認が容易になると考えている。

⇒○上田市 丸子地域建設課 藤澤係長

- ・丸子地域デマンド交通は丸子地域循環バスの利用者数減少を受け、それに代わる形で導入された経緯がある。
- ・そのため、循環バスが運行していなかった内村地区はデマンド交通も運行していない。
- ・大屋駅への乗り入れ等、デマンド交通のエリアを広げるとなると、タクシーやバス事業に大きく影響を与えることとなるため、十分な協議が必要となってくる。

⇒●参加者

- ・バスの運転手は運転以外にも料金の確認などを行う必要がある。
- ・自動運転は難しいとしても、そういったところの自動化を進めた方がいいのではないか。
- ・カスハラについてもうまく対応していただければ、運転手になる人や続ける人が増えるのではないかと感じた。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・料金の確認については、既に運賃精算機があるため、運転手がお金に触るような作業は発生していない。
- ・カスハラについて、当社においては運転手より運行管理や事務所側に多い状況である。
- ・道路状況によるバスの遅延に関して厳しいお言葉を毎日のようにいただいている。
- ・このような中で、運行管理者側からカスハラ対応用のマニュアルを作成してほしいという声が上がっている。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・市としてもマニュアル作成なども含めて、支援を行っている。
- ・できる限りバス事業者の負担が軽減され、本業に集中していただけるよう努めていきたい。

●参加者

- ・息子が鹿教湯線を利用しているが、渋滞などによってバス停に記載された時間から 30 分以上遅れてバスが来ることがたまにある。
- ・通勤にバスを利用しているため、30 分の遅延となると始業に間に合わない。
- ・また、バスが揺れ体調が悪くなった時があった。
- ・そういったところも改善していかなければ、良質なバスの運行という形にはなっていないのではないか。
- ・質的な向上もお願いしたい。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・遅延したバス停について教えていただきたい。また、上田駅から向かう便か。

⇒●参加者

- ・下和子の農協前であり、上田駅から向かう便である。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・下秋和車庫から出る便の場合、渋滞等の影響があり遅れてしまう。

- ・交通渋滞についてはどうしても発生してしまうため、どうやればなくなるのか教えていただきたいくらいである。

⇒●参加者

- ・10分程度の遅延であればわかるが、30分はどうか。
- ・バスの運行時間の設定を簡単にやっているのではないか。多少の遅れを加味した運行時間を設定できないのか。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・道路の待機所の問題もあり、道路管理者にもバスの時間調整ができるスペースを設けてもらうことも必要だと思う。
- ・渋滞も加味した中で運行時刻の設定をしているが、雪や雨、また交通事故といった場合のケースは防ぎようがない。
- ・下秋和車庫から当該停留所までは距離もあり、3分の信号に10回引っかかるだけでも30分の遅延となってしまう、バス事業者のみで解決することはできない。

⇒●参加者

- ・先週、30分遅れるという事態が発生した。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・バス事業者も時刻表を守ろうという形で運行努力をしているというところは、利用者も理解していると思う。
- ・質の問題については、上田市ではTicketQRというキャッシュレス決済システムを路線バスへ導入しており、アプリ上でバスの位置情報を確認することができる。
- ・バスを利用するにあたっては、バス停での待合が必要となってくるが、待ち時間を調整することも可能になってきているため、是非ご活用いただければと思う。
- ・バスの揺れについては、路線バスの赤字の影響で、車両更新になかなか行き届かないことも事実である。
- ・昨今ではEVバスを導入している自治体もある。EVバスは車内の音が静かであるため、すぐにすべてが入れ替わるというわけではないが、導入に向けて検討を行っていきたい。

●参加者

- ・私は普段からバスを利用しているわけではなく、今日も車で来た。
- ・個人的に公共交通がしっかり整備され、弱いものや若年層の交通圏が確保されるべきだと考えており、関心をもって本日参加した。
- ・説明ではテクニカルな話をお伺いし、よく研究しているなど感じたが、残念ながら利用者の視点からこの値段ならここまでバスで行くが、それ以上の運賃なら自動車で行くといったような検討はされていなかったようであり、事業者側からの視点での計画になっていた。
- ・今回の説明の趣旨としてはいずれ値上げをするからちゃんと受け止めてという話と認識した。
- ・値上げした際に、先ほどの乗り心地や遅延のことも踏まえると、無理にでも車を購入して乗り換える人が増えると考えており、本事業は机上の空論になっていると思う。
- ・また、市側の出席者の顔ぶれもいかがか。交通政策の問題で事業に関わる人だけでなく、上田市全体の大きなプランの中での話であるため、もっといろいろなセクションが集まって大きなシンポジウムを開催し、話し合いをしなければならない。
- ・この程度の話し合いで、やったことにしてよいのか。
- ・路線バスをすべて無料化、公営化するということも含めて、上田市が公共交通をこれからどうしてい

くのかというところで、今の形を維持していくだけで本当にいいと考えているのか教えていただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・本計画が完璧なものであるとは我々も考えていない。
- ・計画策定の発端となったのは昨年4月の減便であり、この減便は利用者の減少ではなく、事業者側の運転手不足という理由で行わなければならなかったものである。
- ・運賃低減バスという形で利用者目線の政策を展開してきた中ではあるが、こういったことを考えると、事業者側の事情も汲まなければ今後バスが存続できないということも事実である。
- ・一方が欠けるということではないが、両方をにらみながらまずはできることからやっていくということで計画を説明したところである。
- ・公共交通の維持確保が我々の仕事であるため、今後ご意見もいただきながらより良いものにしていきたいと考えている。

⇒●参加者

- ・説明の最後のスライドに「ご理解、ご協力をお願いします」という記載があった。
- ・私を含め、ここにいる方もそうだと思うが、協力を求められても疑問である。
- ・ご協力をお願いしますといわれ、ここにいるものが受けとった形となり、市民の理解が得られたという形になってしまうのは一番怖い。
- ・市民としては路線バスの値段が上がるのは理解できないと思う。理解できなかつたら乗るのをやめるだけとなる。
- ・今回の会では協力、理解はしない者もいるということを受け止めていただきたい。
- ・意見としては今回の計画はバーチャル的なものである。
- ・長期的なプランを考えることが交通政策課の責任という気がする。
- ・道路環境の整備も交通政策の1つだと思う。バスが混雑するのならバスの専用路線を作るということもやろうと思えばできるという認識でよいか。権限はなくても提案を出すことは可能なのではないか。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・それぞれの道路管理者の判断もあるかと思う。
- ・当然要望することは可能である。

⇒●参加者

- ・市には市民への協力をお願いするのではなく、国や県などと交渉していただきたい。
- ・混雑する道路があれば、バス専用路線を作るということを考えていただきたいと思う。
- ・公共交通はしっかり定時で運行する体制をどう作っていくかが大きなテーマだと思うため、そこを進めていただきたい。
- ・やっていただけないのであれば、協力、理解はお断りする。

⇒○上田市 佐藤都市建設部長

- ・路線バスは年間100万人の移動を支えており、なくなった場合、自動車など他の交通手段で代替することは現実的に難しい。
- ・そういう意味でも維持確保を確実にやっていかなければ、市自体が成り立たない事態となりえる。
- ・バスの定時性確保のため、道路改良を行うということも部分的には必要だと考えている。
- ・丸子地域では国道254号線について、住宅が密集している場所を大型車両が通行することがないよう、県がバイパスを建設している。
- ・また、大きな課題としては大屋駅周辺の渋滞があるが、国が国道18号へバイパスを建設し、18号及

び大屋駅の渋滞を緩和させるという計画を立て、時間はかかっているが、将来に向け実施していくところである。

- ・道路を便利にすると公共交通でなく自家用車を利用してしまうという面もあるため、全体的なことを見通しながら取り組みを進めている。
- ・計画策定にあたっては国とも1年以上協議を重ねており、もちろん市内部の福祉部門等とも情報共有を図りながら進めてきたものである。
- ・ここで説明して、ご理解をいただいて終了ではなく、本計画がすべてではないため、ご意見をいただきながら改善を行い、10月にはスタートしていきたい。
- ・本計画は5年間のものであるため、今後の方針についてもすぐに考えていく必要がある。
- ・いただいたご意見のすべてを実現するとは簡単には言えないが、しっかり取組を進めていきたい。

⇒●参加者

- ・また機会があればトータルな未来の話を聞かせていただきたい。

●参加者

- ・まだ車を運転しているが、飲みに行く際などに年間10回ほど鹿教湯線を利用している。
- ・意見、提案、質問をそれぞれ1点ずつさせていただく。
- ・まず意見としては、今回の説明会を聞く中で、運転手、利用者がともに減少して、どうにもならなくなり運賃をあげるというように聞こえた。
- ・結局利用者を増やすという提案がなかったと感じた。
- ・バスの運転手がいないう状況で利用者が増えるとそれはそれで困ると思う。
- ・しかし、利用者が増加すれば収益も上がるため、利用者を増やす施策は検討いただきたい。
- ・上田市は観光資源があるため、インバウンドなどに力を入れることが必要ではないか。
- ・真田線や菅平高原線の収益率が30%程度ということに驚いた。
- ・菅平高原という観光資源にインバウンド客がバスを利用して行かないということが残念だと思う。
- ・市全体として、他課も巻き込みながら利用者を増やすような取組をしていただきたい。
- ・提案としては、TicketQRのプレミアム率を20%にするとの話があったが、5,000円券のみでなく、3,000円券も対象としていただきたい。
- ・質問としては、別所線の本数を増便したという話があったが、増加させた理由がわからなかった。
- ・別所線の増便についてのみ回答いただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・別所線については、コロナ禍の中で利用者数が減少しており、本数も減らしたという経過がある。
- ・現在は利用者も徐々に戻ってきており、もう一押し利用者数を回復させたいという上田電鉄の思いから、まずは5年間増便を行うということで今回の取組を始めている。
- ・5年間の増便で5万人の利用者増加を目標としており、それが達成できれば引き続き増便後の便数での運行を行う予定である。

●参加者

- ・隣の席にいた方が、先ほどお子さんの部活の送迎で退席された。
- ・運転手不足で非常に大変だと思うが、20時台の便を復活していただけると、高校生の子を持つ親は非常にありがたい。
- ・丸子から上田へ向かう便は比較的充実しているため、丸子修学館高校の生徒はよいが、上田から丸子に帰ってくる学生は非常に困っている。

- ・運転手不足についても長い年月をかけて解決していただきたい。

⇒○千曲バス株式会社 白鳥取締役本部長

- ・先ほど市から説明があった通り、バス通学を行う高校生と意見交換会を実施し、その際に 20 時台の便復活というご意見をいただいた。
- ・今の時点で確実に増やすと確約することはできないが、何とか 20 時台の便を出せるよう調整と協議を行っており、引き続き運転手を増やす努力もしている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・昨年 3 月に丸子まちづくり会議の主催で路線バスの減便に伴う意見交換会を開催した。
- ・その際に、高校生の保護者からバスの運賃を上げてでも増便してほしいという切実な声をいただいた。
- ・意見交換会には白鳥取締役本部長にも同席いただき、いただいたご意見が今回の検討につながっていると感じている。
- ・引き続き 20 時台のバス復活に向け、千曲バスと協議をしていきたい。

●参加者

- ・東信観光バスを普段利用している。
- ・昼間の大屋駅行きのバスに乗車すると鉄道との接続が悪いため、改善をお願いしたい。
- ・免許を返納すると当然路線バスのお世話になることになる。
- ・しかし、車に乗れなくなった後の生活について考えている方はほとんどいない。
- ・体が元気なうちから路線バスを利用する癖をつけるといったキャンペーンを市が積極的に行い、普段から路線バスを大切にしていこうということが重要だと思っている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・昼間のダイヤについては検討させていただく。
- ・路線バスの利用を呼び掛けるということは非常に大切な視点だと考えている。
- ・このような取組はいわゆるモビリティマネジメントといい、なるべく路線バスを使うという方向に皆さまの意識を変えていくということを指す。
- ・今回、計画の中には特段入れてないが、小さいころからバスに親しむという取組も重要だと思っており、昨年度から保育園や地域でのバスの乗り方教室の実施等、地道だが実施している。
- ・今後も引き続き続けていきたい。

●参加者

- ・先ほど 20 時台の運行復活に関する話があったが、わざわざここに来て発言しなければならないということは、ほかに意見表明をする場がなかったということではないか。
- ・気軽に交通に関して、この時間のバスがないと困るといったことを書き込むような場所があれば、意見を言いやすくなるのではないか。
- ・カスハラも減るのではないかと思う。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・ご意見としてお聞きする。

【中央公民館（第9回）】路線バス利用者説明会 会議録

1 協議会名	路線バス利用者説明会
2 日 時	令和7年4月25日（金曜日） 19:00～20:45
3 会 場	中央公民館 大会議室
4 出席者	●上田バス株式会社 新井取締役乗合部長 ○上田市 佐藤都市建設部長、横沢課長、坂口補佐、木角
5 参加者	15名
5 会議概要作成年月日	令和7年5月19日
協 議 事 項 等	

1 開 会（上田市 交通政策課 横沢課長）

2 あいさつ（上田市 都市建設部 佐藤部長）

3 地域公共交通利便増進事業について（上田市 交通政策課 坂口補佐）

4 交通事業者の現状について（上田バス株式会社 新井取締役乗合部長）

5 質疑応答

●参加者

- ・公共交通のメリットとして挙げられていなかったが、交通安全につながるということがある。
- ・自家用車で移動される方は運転のプロではないため、運転の不注意などもある。
- ・また、郊外から自動車ですぐ街中に来て、スピードを出して運転する方もいるため、是非バスで来てほしいと思う。
- ・その中で、ゾーン制運賃は非常にわかりやすいと思うが、運賃低減バスの頃から運賃が上がるため、郊外から街中にバスで来る方の増減の見込みがあれば教えていただきたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・高校生については定期券料金を据え置くため、そこまで減少しないと考えている。
- ・一般の方についても経過措置を設けることで、大きく減少しないと試算している。
- ・運賃見直しは12年ぶりであるため、どのくらいのインパクトがあるのかは読みかねているが、利用者の推移を見ながらバス利用について周知していきたい。

⇒●参加者

- ・バス事業の収入も大切だが、市内に住んでいるものからすると、なるべく車利用者が減りバス利用者が増加するよう、柔軟な政策を行っていただければと思っている。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・様々な方に相談させていただきながらできるかぎり車も減らしていけるよう検討できればと思う。

●参加者

- ・街中に住んでいるが車を所有しておらず、普段バスで移動している。
- ・実際の運賃が低減運賃の 4 倍かかっているなど様々な問題がある中でも、今回の施策を行いながら、市と事業者には今後も頑張ってもらえると理解した。
- ・TicketQR の共通券化については是非行っていただきたい。
- ・また、Google マップでバスを検索しても現状情報が出てこないが、利便性向上のため、検索できるようにしていただきたい。
- ・バスがたくさん運行されていても、表示されないだけでバスが少ないと思われる。
- ・バスの空白地帯があると考えており、運転手が少ない中で課題はあると思うが検討いただきたい。
- ・例えば、上田駅から小牧に向かうルートがないが、新しい住宅や店ができる中で需要が高まっていくと思う。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・TicketQR の共通券化については、時間がかかっており申し訳ないと感じている。
- ・共通券実現にあたっては、資金決済法という法律をクリアしなければならないため、現在解決に向け取り組んでいるところである。
- ・バスと鉄道の共通券化を目指しており、できれば本年 10 月から実現できればと考えている。
- ・Google マップについては、ご指摘のとおりである。
- ・現在千曲バスの運行する路線については、すべて検索が可能となっている。
- ・上田バスの路線については、先ほどの説明にあった運行協定支援事業を実施する中で、5 年間の協定の前提として、GTFS の整備についても盛り込んでいく。
- ・上田駅から小牧については、オレンジバスが週に 2 回であるが運行している。
- ・まず、本事業を実施していくなかで、今後必要な見直しについては皆様のご意見をいただきながら進めていきたいと思う。

⇒○上田バス株式会社 新井取締役乗合部長

- ・GTFS の整備については人材が必要となってくるため、そのあたりの強化も努めていきたい。

●参加者

- ・10 年ほど前、大雪が降った際に他のバス会社は約 1 週間バスが運行されなかったが、上田バスはすぐに運行を行っていただき、好印象を持っている。
- ・バス車両について小型化を進めることによって、運転手からしてみても運行が楽になり、応募者が増えるのではないかな。
- ・蛇沢の細い道も大型バスが運行しており、運転手は非常に大変だと思う。
- ・運賃について、現在は運賃低減バスが導入されているが、低減前の運賃は距離により極端に値上がりしていた。
- ・青木線では上田原駅前や川辺農協前の停留所で一気に運賃が上がっていた。
- ・そのため、青木線の間接地である小泉などの方が、かなりバスを利用しなくなったと思う。
- ・ゾーン制運賃については 10 月から経過措置を設けずに 1,000 円にしてもいいと思う。
- ・夕方、青木の温泉へ行くことがあるが、ほとんど利用者がいない。
- ・慈善事業もいいが、ある程度のところではっきりやっていかなければならないと思う。
- ・最近、公共交通と暮らしのガイドというものが配布されたが、運賃についての記載がない。また、通勤定期についても記載がない。
- ・青木村に事業所がある会社の社宅が市内にできたが、その方たちに公共交通を利用していただければ

かなり違う。

- ・ 運送事業や交通政策に関して、商工会議所が関わっていないことが一番の問題だと思う。
- ・ 私は約 8 年間、月 1 回はバスを仕事で利用してきた。
- ・ 今は観光客を当てにするのではなく、大人が利用しなければならない。
- ・ 市、県の職員が率先してバスに乗るということを実践していただきたい。
- ・ 八十二銀行は約 50 年以上前から公共交通機関を最優先で利用している。
- ・ まずは市の職員が公共交通を利用し、通勤定期を大幅に増やす。そして福利厚生費を減らすということをするべき。
- ・ 環境問題も解決できる。

⇒○上田バス株式会社 新井取締役乗合部長

- ・ 先ほど豊殿線の蛇沢区間についてご指摘をいただいた。
- ・ 車両の配車について、豊殿線は優先的に小型車両を割り当てている。
- ・ しかし、豊殿線のみを運行していれば小型車両で問題ないが、豊殿線を運行した後に他の路線も同じドライバーが運転することになるため、中型車両が利用されることもある。
- ・ ただ、該当区間は非常に狭い区間であるため、ルートの見直しも含めて検討を行っていききたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・ ゾーン制運賃について、事業者からも一気に上げてはどうかと話があったが、利用者には劇的な変化となってしまうため、経過措置を設けた。
- ・ 徐々に運賃を上げていく中で、運賃は上がるものであるということも考えていただければと思う。
- ・ 川西公民館にて説明会を開催した際にも、青木村の事業所に関係する意見があり、そちらは交通渋滞に関連するものであった。
- ・ 本計画を共同で実施する青木村と共に、今後バス事業者も含めて協議を進め、できる限り公共交通の利用を視野に入れたお願いをしていきたいと考えている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・ 商工会議所は内部に交通観光サービス部会があり、そこには交通事業者も参画している。
- ・ 本部会にて上田市総合計画の策定に係る意見交換を行っており、商工会議所も一緒になって公共交通等の検討を行っていただいていると考えている。
- ・ 市職員の通勤について、運賃低減バス運行事業が始まった平成 25 年 10 月に、月 3 日職員が公共交通を利用するという呼びかけがあったということを記憶している。
- ・ しかし、どうしても強制、呼びかけといった形となると長続きしない。
- ・ ただ、何もやっていないというわけではなく、信州スマートムーブ通勤ウィークに市として参加している。
- ・ また、職員の中でも路線バスの状況が厳しいということは共通認識として広まってきており、実際、職場が異動になった時点で自主的に路線バスの定期券を購入するという職員も徐々に増加してきている。
- ・ いわゆるモビリティマネジメントになるが、強制ではない自主的に長く続く取組にしていきたいと考えている。

●参加者

- ・ 今回の説明で路線バスの運行維持を目指しているということが理解できた。
- ・ その中で、運行ルートなども利便性が高くなると思うが、バスに乗る習慣がなければ、今後も乗らない人が多いと思うため、バス乗車が習慣になるような工夫やモビリティマネジメントを行っていただきたい。

- ・バスに乗るとこんないいことがあるという動機づけ情報を発信していただきたい。
- ・栃木県小山市ではバス利用者を3倍にしたという実績もあるため、是非ご検討いただきたい。
- ・説明資料の中で公共交通の必要性について触れているが、もっとあると思う。
- ・マイカー利用が健康を害するということは証明されているため、歩きたくなる街づくりという視点で、公共交通と歩く、また、自転車で暮らせる魅力を伝えることが必要だと思う。
- ・富山市では高齢者の医療費が7億9000万円削減できたという調査がある。
- ・また、交通事故、渋滞の減少、CO2の削減にもつながる。
- ・環境政策課や健康推進課とも是非連携をしていただきたいと思う。
- ・また、説明いただいた事業を5年間行うことで、そのあとも公共交通が持続可能になるのか心配である。
- ・現状、約1億円の赤字がある中でそれを解消できる見込みなのか、こういったバランスで維持をしていくのか。
- ・世界中のセオリーとして公設民営化が行われている中で、上田市においても松本市が始めたような取組を検討していくのかお伺いしたい。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・動機付けについてだが、今回の事業の根幹として、利用するものがなくなってしまうのは利用を呼び掛けでも無駄になってしまうということがある。
- ・実際、バス事業者からも路線バスから撤退したいという申し出もあったことは事実である。
- ・そのため、まずは路線バス、鉄道を残していくということが根底にある。
- ・モビリティマネジメントについても、このベースの部分を行行政が担保していくことが大前提であり、利用者の増加については、今後皆様と一緒に考えさせていただければと思う。
- ・公共交通の必要性については、上田市地域公共交通計画内にはウェルビーイングという形で、ご指摘いただいた事項を記載している。
- ・いわゆるクロスセクター効果についても念頭に置いているところである。
- ・福島大学吉田先生の言葉をお借りすると、公共共通には「都市戦略としての地域公共交通」と「生活支援としての地域公共交通」の2面性があり、この2つの面を多くの自治体は一緒のものとして考えているため、なかなか問題の解決が進んでおらず、これらは別々に考えるべきとおっしゃっている。
- ・我々が行うべきものは「都市戦略としての地域公共交通」であり、事業者と協議を行い、こういった交通形態にしていくのかというところが問われている。
- ・生活支援の部分については、通学補助や高齢者の方の支援などいろいろな側面があり、交通政策課だけでは行うことができないため、他部局や地域の方と連携して実施する必要がある。
- ・今回実施する利便増進事業については、「都市戦略としての地域公共交通」ということでご理解いただきたい。
- ・持続可能な事業になっているのかという点について、現在最大の課題になっている部分は路線バスを運行すればするほど赤字になるということである。
- ・資料の中で赤字額が約1億円とお示ししたが、昨年度減便が実施され、経費が削減されたため、令和6年度の赤字額はここまで大きくならないと考えている。
- ・運賃の見直しによる収益の増加と市支援額の増額によって、赤字の解消を目指すことが今回の事業の大前提である。
- ・行政としても財源が限られている中で、国の制度を最大限有効活用し支出を増やさないというところも大きなポイントであると考えており、限られた財源で組み立てられる内容となっている。
- ・松本市のエリア一括協定運行事業は、本事業の先にあると考えているが、そうすると完全にバスの委託化が行われるため、まずは事業者がバスを運行できる体力を維持しながら、できることから実施していくこ

とを考えている。

●参加者

- ・福祉施設の職員をしているが、事業所に来る際に高齢の親御さんに送迎していただいて何とか通っているという方がいる。
- ・しかし、親御さんが病気になってしまい、事業所に来ることが困難になるという方がたくさんいる。
- ・ほかの事業所でも同様のことが起きており、送迎スタッフの確保等に苦慮している。
- ・人口の 2～3 割の方が運転できないとの説明があったが、実際にはかなりの方が移動の自立が難しい状況であると実感している。
- ・神奈川で暮らしていた際は、バスでの移動を当たり前のツールとして利用していたため、バスに対するハードルが低かったが、上田に来てみてバスを使うことに対するハードルが高いことに驚いた。
- ・富山市では公共交通が整備されたことで、今まで利用していなかった方や高齢者の方が、友達が増えたというアンケート結果もあるようである。
- ・公共交通が整うことで暮らしが豊かになるということが、教育の視点でももっと知られていくことが重要であるということを、上田ビジョン研究会の中でも学んだ。
- ・高校生や障害のある方たちへ今回のような説明の機会はあるのか。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・高校生とは座談会を開催しており、地域の高齢者の方とは出前ときめきのまち講座を通して、意見交換を行わせていただいている。
- ・市としてもこういった機会を通して皆様と意見等感を行わせていただき、よりよい公共交通を考えていきたいと考えている。
- ・ぜひ出前講座開催の依頼などお気軽にお声がけいただければと思う。

●参加者

- ・バスの運転体験ができる会社説明会について、6 月に開催されるとのことだが、その詳細がホームページに公開されていないため、情報発信をお願いしたい。
- ・神川地域の地域主体型交通について、1 人 2,000 円の負担で、あとは市のまちづくり支援金やまちづくり委員会からの負担金でタクシーが安く利用できるという理解でよいか。
- ・資料内に EBPM の手法を用いたバス路線の構築の研究とある。
- ・路線バスのルートは昔から変わっていないところが多いため、現在の上田市の人口分布を見ていくと最適でない可能性もある。
- ・そういったことについても早めに着手していったほうがよいと思う。
- ・そのあたりの取組や今後何が進められそうなものがあるかも伺いたい。

⇒○上田市 交通政策課 坂口補佐

- ・バスの運転体験ができる会社説明会については、開催の約 1 か月前に市のホームページへ掲載させていただく。
- ・神川地域の地域主体型交通については、ご意見のとおり 1 人 2,000 円を登録料として支払っていただく。
- ・その後、申請者数に応じて 1 枚 500 円の券を何枚か配布をし、1 乗車 500 円もしくは 1,000 円までご利用いただき、残りの差額は本人負担となる仕組みとなっている。
- ・市のタクシー利用補助券と同様の利用方法となっている。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・EBPM についてはすぐに着手できるところがない状況ではあるが、職員が持つべき視点であるため記載をさせていただいた。
- ・神戸市では EBPM に基づく路線バスの見直しを検討している。そういった事例を参考にしつつ、今後取り組んでいきたい。
- ・また、TicketQR の OD データ（乗降データ）も令和 2 年から蓄積されているため、こういったデータの可視化も進めていく予定である。

●参加者

- ・公共交通を維持していくために、市民に対して公共交通税を課すのはどうか。
- ・それを財源とし、公共交通で行ける商店や病院と連携して、割引サービスを行う。
- ・こういった取組ができれば、公共交通を利用したほうが得であり、利用が増えると思う。
- ・また、実施する場合はどれくらいの規模感で行うか、また、市民に対する訴求力も重要となる。
- ・実質的には公共交通を利用することで市民に還元される金額が交通税と同程度か、公共交通維持をより強化していくなら交通税以上になるような設計がよいと思う。
- ・また、超過した市民への還元と不足する税金の差分を埋めるために、クラウドファンディングや、ふるさと納税を活用するという考えもある。
- ・例えば上田市に寄付をした方や組織には、3～5 年程度の公共交通や飲食店、医療費のフリーパスのようなものを発行するなど。
- ・運転手不足については、昔、介護職員とボディビルダーとの関係について話を聞いたことがある。
- ・内容は人手不足の介護事業者が、ジム代の補助を行ったところ、人手が充足したというもの。
- ・また、ボディビルダーは性格的にも真面目な方が多く、戦力になる。
- ・そのほかにも、髪色の制限をすると若者の就職の際に選ばれにくくなるということもあるようである。
- ・親の介護や子供の面倒を見るといったことで、運転手をあきらめる方もいると思うため、そのあたりの解決も必要となってくる。
- ・路線の運行ルートについては、アンケートを実施し、回答いただいた方には公共交通の乗車券を配るなどもよいかもしれない。
- ・よくバス、鉄道を利用するが、運賃を是非上げてほしい。逆に運賃が安いと不安になってしまう。

⇒○上田市 交通政策課 横沢課長

- ・交通税については滋賀県で導入が検討されている。
- ・長野県では宿泊税が導入されようとしているため、それが交通にも恩恵があるかというところ注視していきたいと思う。
- ・アンケートについても利用者の生の声を聞き取る手段として非常に有効だと考えている。
- ・今後も様々なご意見をいただきながら、事業を進めていきたい。